

# 第16回「議員と語り合い」報告書

環境福祉常任委員会 (No. 1)

開催日	平成27年10月22日 18時00分 ~ 19時30分		
開催場所	議会棟 第2委員会室		
団体名	鹿児島県看護連盟 始良支部、伊佐支部	参加人員	9人 (男 1人:女 8人)
出席議員	宮本 明彦、宮内 博、植山 利博、徳田 修和、中村 満雄		
役割分担	委員長 ( 宮本 明彦 ) 副委員長 ( ) 記録者 ( 中村 満雄 )		
テーマ及び具体的な内容	女性が安心して働けるための支援について ・医療機関に於ける、看護職の状況 ・保育事業について		
感想	医療従事者の子育て支援の特殊性について改めて認識した。医療施設としても院内保育園を作るなど看護師確保の努力を行っている。 医療施設でも規模の大小で抱える問題は違う、さらに慢性期医療施設と急性期医療施設、救急医療施設の抱える問題は異なる。急性期医療施設、救急医療施設に勤める子育て看護師には特別な配慮が必要ではないだろうか。		
反省点	特になし		

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

<意見交換会での主な意見等>

始良伊佐支部で4230名の看護師が働いている。

鹿児島に11支部、33000名程度、

全国の潜在看護師：70万人、始良伊佐支部は県内で3番目の規模

看護事業に従事している方々の声を聞いて欲しい、すぐに制度化、予算確保は難しいことは承知している。

鹿児島、串木野、大隅、鹿屋での議員さんとの懇談は終わっている。

・会合での結果は28年度の予算として生かさせていただければと思う。

・女性が働くためには保育事業の充実を期待する。

院内に認可保育園がある病院は若い看護師さんが入ってきてくれて助かっている。

日曜日勤務可能者を増やせた。日曜日勤務者が固定していたことが改善した。

お泊り保育が出来たら、夜勤者確保が出来るのだが。

平日、保育園に預けている。日曜日保育については家族の理解が得られない。

看護師は感覚が麻痺している。忙しいのが当たり前、残業も当たり前、5時に帰りたいから朝7時から出勤し頑張っている人もいる。昼休みも満足に取れない。このような勤務が当たり前になっている。育休明けの人は9時から16時で帰る。それを支える人数が欲しい。保育園は病気になったら預かってもらえない、軽い症状であれば預かってくれる保育園もあるようだ。どのようにしたら、解決するかは見えない。

仕事はしたい、子どもを預けるところが無いというのが実情。このような看護師を職場に引き込むために院内保育施設設置がここ4、5年多くなっている。病院自体が保育園を運営しているところもある。全国規模の業者に運営を委託している施設もある。

院外の私立保育園の保育料は3~4万円かかる。院内保育園は1~2万円。

24時間開設の保育園が欲しい。土、日、祝日の開設の希望がある。

夜勤は子育てが終わった人や独身者が多い。そのような人に夜勤が集中する。規定上は月8回であるが、10回、12回の夜勤をする人もいる。子育て中の人には申し訳ないといながら仕事をしているのが現状である。看護師が充足できて経営が旨く行っている病院もあるが、院内保育園をもっている病院は少ない。潜在看護師発掘のためには保育園の増設は必要と思う。

院内保育施設に入れる人数も決まっており、一人の保育士が担当できる子ども数は制限がある。保育士確保も困難な状況である。

◇国は人口減少の現実から子育て支援策を進めている。出生率は低下。これでは国がもたない。子ども子育て支援法が出来た。一定基準を満たした認可外保育園にも補助をするようになった。保護者の負担軽減に繋がる政策、保育環境の充実の動きが始まりつつある。24時間の保育体制は必要であろう。

◆中心部と周辺部では事情が全く異なる。周辺部から国分に仕事にくる人にとっては時間内に子どもを迎えに行けない。子どもの具合が悪いとすぐに電話が来る。急性期病院、救急病院では仕事を放棄して子どもを迎えに行くことは難しい。

◇霧島市の保育園は定員：9060人に対し、利用者：6929人、76.5%の入所率。保育現場に対する保護者の多様な要求に応えられる様な保育園を作るべきという問題意識は持っている。財源が必要、周辺部と市街地における保育の要求も異なる。これらに応えるべく、十分な議論が行われているとは言えない。看護師との意見交換の場を得られて議員としても問題意識を共有できる機会になった。単発的ではなく今後とも声を発していただきたい。請願、陳情という手段もある。身近な議員に声を寄せれば議員の問題意識が高まる。議員から執行部に改善を求めることも議員としての役割であり、大いに活用していただきたい。

◆霧島は子育てしやすいところだという評判で看護師たちが集まれば嬉しい。

霧島市の保育園で看護師を雇用すれば、子どもの具合判断ができると思う。

◇保健福祉部でそこまで踏み込んだ要求を受けているか、聞いたことがない。保育士は子どもの具合の判断はできないであろう。看護師も足りない状況で保育所の看護師雇用に応募する方がいるかは分からない。

◆病児保育を実施している病院がある。家が遠かったりして利用は難しい。キッズパーク（子育て支援課所管）の人気の高い。しかし開所が遅く、閉所が早い。日曜日の日勤で割高であっても、子どもが喜ぶ施設であるとの声は聞く。キッズパークの開所時間を7時半にならないか。

◇課題について、委員会の議論を重ねている。保育士不足も課題、保育士の処遇向上も課題。（北播磨病院の院内保育、宇治市保育士育成状況を紹介）

◆慢性疾患を扱う病院の看護師の離職は少ない。院内保育所の無いところは病児保育の問題がある。医師会医療センターは24時間保育、土日保育も実施している。他の病院の幼児を受け入れるわけではない。

◇無認可保育園でも一定の基準を満たせば補助をしている。県は直接無認可保育所に一定の基準を満たせば国の補助を受けられるとの説明会を実施している。霧島市は充足率としては満たしている。ミスマッチがある。ニーズに対して的確に応えられない。施設をさらに増やすと少子化がさらに進んだ時に、作った施設を壊さねばならないかもしれない。国からの補助金はあるが、自主財源も投入しなければならない。将来的に作ったはいいが、また、潰さねばならない、その判断が難しい。

◆霧島市には認可保育所が43箇所あるようだ。地域に一箇所でも良いから看護師が勤務する保育所が欲しい。病院は命との闘いであり、待てない。子どもとか、家族とかの不具合があっても人に任せて帰ることは責任上できない。女性という視点で一緒に考えて欲しい。

小学校1年生問題がある。6月くらいまでは午前中授業である。親に面倒見てくれと言えば子どもを置いてなんで仕事に行かねばならないかなどと言われ、家族の協力を得られない家庭もある。親が年取っているから面倒を見れないなどのケースもある。

学童保育は定数があり、その権利を譲るように言われたこともある。

◇議員は子育て支援の重要性について共通認識を持っている。看護師の要望は継続的に聞きたい。